

平成 25 年度キルギス国別研修がえりもで行われました
～えりも緑化事業紹介とえりも地域住民との対話集会～

5月17日、18日にJICA（国際協力機構）のキルギス国別研修「森林経営」コースの方々がえりも岬国有林を訪れました。

6回目となる今回の研修には森林局副長官、営林署の署長、次長、開発局や村長などの計6人が参加しました。うち1人はキルギスでは3人しかいないという森林局女性職員でした。



1日目（17日）はキルギス研修員、JICAスタッフと日高南部署のみの参加で、「夢は砂漠化しない」というDVDを上映し、えりも岬における緑化事業の歴史を紹介しました。上映後、研修員から「砂漠になる前の樹種を造林しているのか？」「天然更新はしているのか？」などの質問が出されました。また、「シカの被害があるのか？」との質問に、被害についての説明をしたところ、「キルギスにはオオカミがいて家畜が被害を受けている。えりものシカとキルギスのオオカミを交換すればたちまち解決する。」といった、お国事情もでた質疑となりました。

その後、みどり館・第1展望台・管理塔で治山事業の説明や現在の蘇ったえりもの森林を見てもらいました。キルギス研修員からは、「えりもの緑化事業に対する森林管理署の功績と地域住民の協力は未来永劫賞賛されるだろう」との嬉しい感想を頂きました。締めくくりに、百人浜の海岸を散歩しましたが、海のないキルギス研修員たちはこのほか喜ばれ、1日目を終了しました。

2 日目（18 日）は「地域住民との対話集会」を林業総合センターで行いました。

最初にえりも治山事業が現在行っている作業やこれからのえりもの森林について説明をしました。説明後、キルギス研修生と日高南部森林管理署、えりも町長をはじめ役場の方々、森林組合、漁業組合の方々との対話が行われました。研修生からは、「緑化事業の開始時から住民は協力的だったのか？」「漁業関係者も緑化に携わっているのか？」「森林組合の仕事は？」など、緑化事業と様々な立場との係りについての質問が多く出されました。



また、「キルギスでは木材の活用よりも果実の収穫を期待してアンズなどを植樹している。しかしクロマツが立派に育っているえりもの緑化事業を視察し、クロマツを植樹してみたい。」といった意見も出されました。ほかにも林業と経済システムの係りについてや、子どもたちへの環境教育などの様々な話題についてお互いに意見交換が行われ、双方にとってとても充実した対話集会となりました。

最後に、「えりもの森林の針広混交林化への今後の成功とえりも町のより一層の活躍をご祈念します。」との言葉を頂き対話集会は終了しました。

平成 21 年から続いたキルギスからの研修受入はプロジェクトが終了するため次回の予定はありませんが、今までの研修が今後のキルギスの森林経営に役立つことを願ってやみません。